

新任のご挨拶

関西学院大学総合政策学部 教授 岡田 憲夫

本年(2013年)4月に本学総合政策学部教授として着任しました岡田憲夫と申します。上ヶ原キャンパスにある本学の復興制度研究所の所長も兼務することになりました。総合防災学、災害リスクマネジメント、安全・安心まちづくり、社会基盤計画学、社会システム工学などを専門にしています。よろしく申し上げます。

大学で研究者・教育者として禄を食む仕事に就いてから、早40年が過ぎました。京都大学を皮切りに、鳥取大学、再度、京都大学、そこでの一区切りを経て、熊本大学に一年勤務し、この度関学に参りました。振り返りますと、私はこれまで防災や環境、都市、地域の諸問題をシステム科学的関心から横断的に捉え、政策を包括的に講じていくことに大変興味を抱いて研究や教育を進めてきたように思います。総合防災学や参加型計画論、減災まちづくりなどへの関心はそこから来ています。言い換えればまだ学問や確立した教育・研究分野となっていない未開拓領域に足を踏み入れてあがき、格闘することを繰り返してきました。

このたび関西学院大学総合政策学部という新しい教育研究環境に身を置く機会を得て、恥ずかしながらいまひとつの「人間的成長」を図りたいと念じております。特に「総合政策学部」が目指そうとしている「総合性と政策的意味の個別的具現化」に日々真剣に取り組んでおられる先生方や事務スタッフの皆さん、またそれを学ぶ立場にいる学生諸君にたえず接することで刺激を受けて、私の中の総合政策論的意義と使命の実体化が進む機会にしたいと願っています。本学部では今春定年退職された室崎先生を中心として、被災する側に立った眼線から独自性に裏づけられた防災・減災学を切り拓こうとされてきています。及ばずながら私も皆さま方のご支援を得て、その灯はぜひ受け継ぎたいとの思いを強くしています。

また兼務します災害復興制度研究所は、設立からの歴史はまだ浅く、規模も小さいのですが、その割には「災害復興」というきわめて明確かつ時宜を得たテーマを掲げ、特に3.11以降の日本が取り組むべき課題に実践的成果を着実に挙げてきています。私にとってはこの「災害復興」というテーマそのものも私に課せられた学びの新しい柱にしていくつもりです。なお防災もまちづくりも、単なるデスクワークではなく、いかに現実のフィールドと一体化しながら、実践・経験知を政策論的知に変換していくか、またそれをどこまで共有知としていくか、それが最大の挑戦的課題となっています。微力であり、与えられた時間は限られていますが、そのような方向を目指して「私のトータルの人間的成長」を関西学院のキャンパスの土壌で、ささやかでも遂げてみたい。そんな年甲斐もない夢を抱いています。

ぜひ皆さま方のお力添えをお願いします。